

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2013 年 9 月

「パート II - 贖罪の犠牲における大祭司としての働き (I)」

「キリストが中心の家庭」 「第一天使のメッセージ (II)」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「パートII-
贖罪の犠牲における大祭司としての働き (I)」 4

朝のマナ

「キリストが中心の家庭」 10
信仰によってわたしは生きる

現代の真理

「第一天使のメッセージ (II)」 41
三重のメッセージ

力を得るための食事

「カリフラワのグラタン」 50

お話コーナー

「カメレオンのクリスチャン」 52

教会

【正丸教会】

〒 368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話 : 0494-22-0465
FAX : 0494-26-5059

【高知集会所】

〒 780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2
電話 : 088-831-9535

【沖縄集会所】

〒 905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話 : 0980-55-8136

アクセス

ホームページ : <http://www.4angels.jp>
メール : support@4angels.jp

発行日 2013 年 8 月 30 日
編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション
〒 368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sozai on front cover;
HighRes on pages 48

安息日の意味

第一天使は、「神をおそれ、神に栄光を帰せよ」、神を天地の創造主として礼拝せよと、人々に呼びかけている。そうするためには、神の律法に従わなければならない。賢者は、「神を恐れ、その命令を守れ。これはすべての人の本分である」と言っている（伝道の書 12:13）。神の戒めに対する服従がないならば、どんな礼拝も神に喜ばれることはできない。「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。」「耳をそむけて律法を聞かない者は、その祈でさえも憎まれる」（ヨハネ第一 5:3、箴言 28:9）。

神を礼拝する義務は、神が創造主であり、他のすべてのものはその存在を神に依存している、という事実に基づいている。そして、聖書の中で、異教の神々にまさって神が崇敬と礼拝を受けるべきであると示されているときは、常に、神の創造の力がその実証としてあげられている。「もろもろの民のすべての神はむなしい。しかし主はもろもろの天を造られた」（詩篇 96:5）。「聖者は言われる、『それで、あなたがたは、わたしをだれにくらべ、わたしは、だれにひとしいというのか。』目を高くあげて、だれが、これらのものを創造したかを見よ。」「天を創造された主、すなわち神であって、……地を…造られた主はこう言われる、『わたしは主である、わたしのほかに神はない。』」（イザヤ書 40:25、26、45:18）。詩篇記者も言っている。「主こそ神であることを知れ、われらを造られたものは主であって、われらは主のものである。」「さあ、われらは拝み、ひれ伏し、われらの造り主、主のみ前にひざまずこう」（詩篇 100:3、95:6）。また、天において神を礼拝する聖者たちは、神をあがめるべきその理由として、「あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるにふさわしいかた。あなたは万物を造られました」と述べている（黙示録 4:11）。

黙示録 14 章には、創造主を礼拝するようにという呼びかけが人々に対してなされている。そして、三重の使命の結果として、神の戒めを守る一団の人々が起こることを、預言は示している。これらの戒めの一つは、神が創造主であることを直接指示している。第四条は、次のように宣言している。「七日目はあなたの神、主の安息である。……主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。

それで主は安息日を祝福して聖とされた」（出エジプト記 20:10,11）。安息日について、主は、さらに、それが「しるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである」と言われる（エゼキエル書 20:20）。そしてその理由は、「それは主が六日のあいだに天地を造り、七日目に休み、かつ、いこわれたからである」と言われているのである（出エジプト記 31:17）。（各時代の犬争闘下巻 155, 156）

贖罪

パート II—贖罪の犠牲における大祭司としての働き (I)

I. 完全な贖罪の犠牲の功績をもって仕えておられる

これらがわたしたちの主題である、すなわちわたしたちの罪のために十字架につけられたキリスト、死人の中からよみがえられたキリスト、神のみ前におけるわたしたちの仲保者キリスト、そしてこれらに密接に関連しているのが、聖霊の働きである。(伝道 187)

大いなる犠牲であられるキリストがささげられて、神に受け入れられたのであった。そして、ペンテコステの日にくだった聖霊によって、弟子たちの心は地上の聖所から天の聖所へ向けられた。イエスはご自身の血によってそこへ入り、贖いの恩恵を弟子たちにそそがれるのであった。(初代文集 422)

わたしたちの救い主は、聖所においてわたしたちのためにとりなしをしておられる。このおかは、わたしたちのためにとりなしてくださる大祭司であられ、わたしたちのための贖罪の犠牲を払い、わたしたちのためにご自分の血の効力を嘆願しておられる。(クリスチャン教育の基礎 370)

サタンの奴隷のかせと奉仕から脱却し、インマヌエルの君の血染めの旗じるしの下に立つ者はみな、キリストのとりなしによって守られる。わたしたちの仲保者であられるキリストは、御父の右におられ、いつもわたしたちをご覧になっておられる。なぜなら、このお方がご自分の血でわたしたちを贖って下さることが必要であったように、ご自分のとりなしによってわたしたちを守ることが必要だからである。もしこのお方が一瞬でもわたしたちを手放してしまわれたら、サタンはいつでも滅ぼそうと待ち構えている。このお方の血によって買われた者たちを、今このお方はご自分のとりなしによって守られる。(原稿 73, 1893)

ご自分の血をわたしたちのために注いで下さったお方が、それを嘆願するために生き、すなわちご自分を受け入れるすべての魂のためにとりなしをなすために生きておられることを神に感謝する。……わたしたちはイエスの血の功績をいつも自

分たちの目の前においでいる必要がある。このように生きた信仰によって命を清め、命を支える血が適用されることこそ、わたしたちの希望である。わたしたちはそのはかりしれない価値を正しく評価することにおいて成長する必要がある。なぜなら、それがわたしたちのために弁護するのは、わたしたちが信仰によってその徳を主張し、良心をきよく保ち、神との平和を維持している時だけだからである。

これは許しの血として表されており、わたしたちの贖い主の復活と命に不可分に結びついている。そしてそれは神の御座からつねに流れている命の川の水によって例示されている。(手紙 87, 1894 年)

キリストはわたしたちの罪のための贖罪の犠牲を払うために死なれた。御父の右で、このお方はわたしたちの大祭司として、わたしたちのためにとりなしておられる。ご自分の命という犠牲によって、このお方はわたしたちのための贖いを買われた。このお方の贖罪は、自らを低くし、キリストを万事における自分の模範として受け入れるすべての人のために効力がある。もし救い主がわたしたちの罪のための供え物としてご自分の命を捧げて下さらなかったならば、全人類家族は滅びていたのである。彼らには天国への資格がないはずであった。わたしたちが、信仰と悔い改めと改心を通して、神聖にあずかる者となることができ、こうして世にある欲によって墮落することを免れることができるのは、このお方のとりなしを通してである。(原稿 29, 1906 年)

〔ヨハネ 17 章〕のこの祈りは、わたしたちの救い主が人類のための大いなるご自分の犠牲、すなわちご自身という捧げ物を完成されたときに、幕のうちに続けてくださるとりなしに関する教訓である。わたしたちの仲保者は、柔和とへりくだりのうちに、利己心をまったく空にし、このお方の救う力を信じてご自分の許へ来るすべての者のために、この天の聖所におけるご自分の奉仕の例示を弟子たちにお与えになった。(原稿 29, 1906 年 (ハイブル・コメンタリ [E.G. 訳注] コメント) 5 卷 1145)

II. 十字架のわざを適用し、完成する奉仕

天の聖所における、人類のためのキリストのとりなしは、キリストの十字架上の死と同様に、救いの計画にとって欠くことのできないものである。キリストは、ご自分の死によって開始された働きを、復活後、天において完成するために昇

天されたのである。われわれは、信仰によって、「わたしたちのためにさががけとなって、はいられた」幕の内に入らなければならない（ヘブル 6:20）。そこには、カルバリーの十字架からの光が反映している。そこにおいて、われわれは、贖罪の奥義について、もっとはっきりした理解を持つことができる。（各時代の争闘 下巻 222,223）

山腹におけるキリストの言葉は、人のためのご自分の犠牲は十分に完全であることの宣言であった。贖罪の条件は満たされた。このお方が果たすためにこの世に来られた働きは成し遂げられた。このお方は御国を勝ち取られた。このお方はそれをサタンからもぎとり、万物の相続者となられた。このお方は、天使たちや権威や支配によって誉れを受けるために、神の御座への途上にあった。このお方はご自分の仲保の働きに入られたのであった。限りない権威をまとって、このお方はご自分の弟子たちにご自分の任務をお与えになった。「あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ、わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである」。

ご自分の血をわたしたちのために注いで下さったお方が、それを嘆願するために生き、すなわちご自分を受け入れるすべての魂のためにとりなしをなすために生きておられることを神に感謝する。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」。イエス・キリストの血はわたしたちをすべての罪から清める。それはアベルの血よりもすぐれた力をもって語る。なぜなら、キリストはいつも生きていて、わたしたちのためにとりなして下さるからである。わたしたちはイエスの血の力をいつも目の前に見ている必要がある。（手紙 87, 1894 年）

イエスは、御父の前に立って、絶えず世の罪のために犠牲を捧げておられる。このお方は真の幕屋、すなわち人ではなく主によって建てられた幕屋の奉仕者であられる。ユダヤ人の幕屋の型としての捧げものには、もはや何の力もなかった。日ごと、また年ごとの贖罪は、もはや必要ない。しかし、罪を絶えず犯すがゆえに、天の仲保者の贖罪の犠牲は不可欠なのである。わたしたちの大祭司イエスは、わたしたちのために神のみ前に出て、わたしたちのためにご自分の流された血を捧げておられる。（ユース・インストラクター 1903 年 4 月 16 日）

ご自分のしみのない命、その従順、カルバリーの十字架上におけるその死に

よって、キリストは失われた人類のためにとりなされた。そして、今や、わたしたちの救いの将は、単なる嘆願者としてわたしたちのためにとりなして下さるだけでなく、勝利者として、ご自分の勝利を主張して下さい。このお方の捧げ物は完全であり、わたしたちの仲保者として、このお方は神のみ前にご自分のしみのない功績とご自分の民の祈りと告白と感謝の入った香炉をもって、ご自分の定められた働きを実行される。このお方の義によって香り、これらは芳しい香りとして神のみ許へ上る。捧げ物は完全に受け入れられるものであり、許しはすべての罪を覆う。真に信じる者にとって、キリストは実に、聖所で自分のために務めをなし、神の定められた方法を通して弁護して下さいる聖所の奉仕者であられる。(ザンズ・オブ・タイムズ 1900 年 2 月 14 日)

天の法廷で、キリストは教会のために弁護しておられる。すなわち、キリストが血のあがないの値を支払われた人々のために弁護しておられるのである。どんなに世紀や時代を重ねても、キリストのあがないの犠牲は効力を減じない。生も死も、高いものも深いものも、キリスト・イエスにおける神の愛からわれわれを引き離すことはできない。それはわれわれがしっかりとキリストをつかんでいるからではなく、キリストがわれわれをしっかりとつかんでいるからである。(患難から栄光へ下巻 256)

イエスは天におけるわたしたちの偉大な大祭司であられる。そしてこのお方は何をしておられるのであろうか。このお方はご自分を信じるご自分の民のためにとりなしと贖罪をしておられるのである。(牧師への証 37)

神へは、イエス・キリスト、すなわち仲保者であり、神が罪を許される唯一の道なるお方を通して近づく。神はご自分の正義、ご自分の聖潔、ご自分の真理を犠牲にして、罪を許すことはおできにならない。しかし、このお方は罪を許し、しかもそれを完全に許して下さい。このお方が主なるイエス・キリストにあって、またこのお方を通してお許しにならない罪はない。これが罪人の唯一の希望であり、もし彼が真心からの信仰のうちにここに安んじるならば、彼に許し、しかも完全にして無償の許しは確実である。ただ一つの水路があるのであり、それはすべての人が近づくことのできるものである。そしてその水路を通して、豊かでありあまるほどの許しが悔い改めた魂を待っていて、最も暗い罪も許される。

これらの教訓は、何千年も前に神の選民に教えられ、真理の働き、すなわち血を流すことなしには罪の許しがないことが、すべての心のうちにしっかりとどま

るように、さまざまな象徴や比喩によって繰り返された。(手紙 12, 1892 年)

キリストはわたしたちのために死なれた。そしてこのお方の完全さを受け入れるとき、わたしたちは天への資格を得る。このお方を信じるすべての人に、このお方は神の子となる力をお与えになる。このお方が生きておられるがゆえに、わたしたちもまた生きるのである。このお方は天の裁判所におけるわたしたちの弁護人であられる。これがわたしたちの唯一の希望である。(原稿 29, 1906 年)

ご自身の命を与えることによって、キリストは地上の男女一人ひとりのための責任をご自分に引き受けられた。このお方は神のみ前に立ち、父よ、わたしはこの魂の罪をわが身に引き受けましたと言われる。もし彼が自分でそれを負うまにされれば、彼にとって死を意味します。もし彼が悔い改めたら、彼を許して下さい。わたしの血が彼をあらゆる罪から清めます。わたしは世の罪のために自分の命を捧げました。

もし神の律法の違反者が、キリストのうちに自分の贖罪の犠牲を認めるならば、もし彼があらゆる不義から清めることのできるお方を信じるならば、キリストが彼のために死なれたのは、無駄ではなかったのである。(レビュー・アンド・ヘラルド 1900 年 2 月 27 日)

「そこで、イエスは、神のみまえにあわれみ深い忠実な大祭司となって」贖罪を通して「[この言葉に注意なさい] 民の罪をあがなうために」、「あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった」。

悔い改めた罪人は自分の個人的な救い主としてキリストを信じなければならない。これが彼の唯一の希望である。彼はキリストの血の功績をつかみ、自分の価値として十字架につけられ、よみがえられた救い主を神に提示することができる。こうして、ご自身というキリストの捧げ物、すなわち罪人のための罪のないお方を通して、すべての障害が取り除かれ、神の許しの愛が、豊かなあわれみの流れのうちに墮落した人類へあふれるのである。(手紙 91, 1895 年)

わたしたちが神のみ前に、キリストの功績を認め、感謝するとき、香がわたしたちのとりなしのために与えられる。ああ、この大いなる憐れみと愛の価値をだれが測ることができよう。わたしたちがキリストの功績という徳を通して神に近づくとき、わたしたちはこのお方の祭司の衣で覆われるのである。このお方はわたしたちをご自分のかたわら近くにおかれ、ご自分の人性の腕をもってわたしたちをいだき、一方ご自分の神性のみ腕をもって無限の方の御座をつかんでおられる。

このお方は彼らの嘆願を促すために、ご自分の功績を芳しい香として、御手のうちにある香炉の中にお入れになる。このお方は彼らの嘆願を聞いて、それに答えると約束しておられる。(手紙 22, 1898 年)

今日、このお方〔キリスト〕は、御父の前でわたしたちのために贖罪をなしておられる。「もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる」。悪人たちの激怒と偏見によって刺し通されたご自分のたなごころを指し示しながら、このお方はわたしたちについて次のように言われる、「見よ、わたしは、たなごころにあなたを彫り刻んだ」(イザヤ 49:16)。御父は、人類のために支払われた代価を認めて頭をたれ、御使たちは敬神のうちにカルバリーの十字架に近づく。これはなんという犠牲であろう! だれがこれを測り知ることができようか! 人が贖いの計画を理解するには、まったく永遠の月日を要する。それは規則に規則、ここにも少し、そこにも少しと明らかにされていくのである。(原稿 21, 1895 年)

信仰によってわたしは生きる

The Faith I Live By



9月 「キリストが中心の家庭」

エデンの家庭

「主なる神は東のかた、エデンに一つの園を設けて、その造った人をそこに置かれた。」(創世記 2:8)

神ご自身の手で飾られた〔わたしたちの最初の両親〕の家庭は、豪華な宮殿ではなかった。高慢な人間は、広壮で高価な建物を好み、自分たちの手のわざを誇る。しかし、神は、アダムを園の中におかれた。これが、彼の住居であった。青空が屋根であり、美しい花と緑の草のじゅうたんを敷いた地が床であった。葉の繁った大木の枝が、天蓋であった。壁は、偉大な芸術家であられる神の作品によって最も豪華に飾られていた。(人類のあけぼの上巻 25)

人が神の造られたもののめんどろを見る仕事の中に幸福を見いだすこと、彼の必要が園の木の果実で満たされることが神のご計画であった。(7ドベンチスト・ホーム 17)

清い家族の環境は、すべての時代に教訓を教えている。つまり真の幸福は、誇りとぜいたくにふけることにあるのではなくて、創造のみわざによって神と交わることにあるということである。もし人間が、……もっと単純さをつちかうなら、彼らは、神の創造の目的に接近することであろう。……どんなに多くの富を所有している人であっても祖先のアダムに与えられた嗣業と比較すれば、いったいどれほどのものであろうか。(人類のあけぼの上巻 25, 26)

エデンの園は、全地をこのようにしたいという神のご希望のあらわれであった。人類家族の数がふえるにしたがって、エデンの園で神から与えられたのと同じような他の家庭……を設けるようにというのが神のみこころであった。こうして全地は、時がたつにつれて、神のみ言葉とみわざを学ぶ家庭や学校で満たされ、生徒たちは、永遠にわたって、神の栄光を知る光を、ますます深く反映するのにふさわしい者となるはずであった。(教育 12)

最初の結婚

「また主なる神は言われた、『人がひとりであるのは良くない。彼のために、ふさわしい助け手を造ろう。』」（創世記 2:18）

人間は孤独な生活をするように造られたのではない。彼は、社会的な存在でなければならなかった。もし伴侶がなければ、エデンの美しい光景も、愉快的な労働も、完全な幸福を与えることはできなかったであろう。天使たちとの交わりでさえ、同情と伴侶を求める彼の願望を満足させることはできなかった。愛し愛される同じ性質のものがいなかったのである。

神ご自身が、アダムに伴侶をお与えになった。神は、「彼にふさわしい助け手」すなわち、彼にちょうど合った助け手、彼の伴侶となるにふさわしく、彼と一つになって、愛し、同情することができる者をお与えになった。エバは、アダムのわきから取られたあばら骨によって創造された。このことは、彼女がかしらになって彼を支配するのでもなければ、彼よりは劣った者として彼の足の下に踏みつけられるものでもなく、同等のものとして、彼のかたわらに立ち、彼に愛され、守られるものであることを示している。男の一部分、彼の骨の骨、彼の肉の肉として、彼女はアダムの第二の自分であった。そしてこの関係には、密接な結合と深い愛情がなければならないことを示された。「自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもない。かえって、……おのれを育て養うのが常である。」（エペソ 5:29）。……

神は、最初の結婚を取り結ばれた。だから、結婚式の制定者は宇宙の創造主である。「結婚を重んずべきである」（ヘブル 13:4）。それは、神が人間にお与えになった最初の賜物の一つであった。また、それは、墮落後、アダムが楽園の門からもって出た二つの制度のなかの一つである。婚姻関係に関する神の原則をわきまえ、それに従うときに、結婚は祝福である。それは、人類の純潔と幸福を守り、人間の社会的必要を満たし、肉体的、知的、道徳的性質を高める。（人類のあけぼの上巻 21）

家族のきずなは、地上における何ものよりも親密で最も優しく、神聖なものである。それは人類の祝福となるために計画された。賢明に事を運び、神をおそれ、責任を十分に考慮して結婚の誓いがなされるならばそれは祝福である。（ミストリー・オブ・ヒーリング 329, 330）

二つの命の結合

「それで人はその父と母を離れて、妻と結び合い、一体となるのである。」(創世記 2:24)

神は結婚関係にはいる当事者の間に完全な愛と調和があるべきことをお定めになった。花婿も花嫁も神がお定めになったように、宇宙の前でお互いに愛し合うことを誓約しなければならない。(アドベンチスト・ホーム 104)

各家庭はそれぞれ神聖なわくの中であって、それはこわしてはならぬものである。このわくの中には他人はだれも入る権利がない。夫も妻も自分たちだけのものである信頼を他人に与えてはならない。お互いに愛を強制することなく、かえって愛を与えるべきである。自分の中にある最高の品性を養育し、互いに相手の長所をすみやかに認めるようにしなさい。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 333)

愛情は水晶のようにきよらかで、純潔さにおいて美しいかもしれないが、まだ試みや試練を経っていないために浅いことがある。すべてにおいてキリストを最初とし、最後とし、そして最上としなさい。絶えずこのお方を見つめなさい。そうすればこのお方へのあなたの愛は試練というテストを受けるたびに日ごとに深く強くなる。そしてこのお方へのあなたの愛が増すにつれて、お互いへの愛が深く強くなってゆく。(教会への証 7 巻 46)

栄光の希望であられるキリストがほんとうに心の中に形づくられているなら、家庭には一致と愛がある。妻の心に住むキリストは、夫の心に住むキリストと協調する。夫も妻も、キリストがご自分を愛する者のために備えに行かれた家に行くために心を合わせて努力する。(アドベンチスト・ホーム 123)

キリストが支配なさるところにだけ、深い、真の無我の愛が存在することができる。そのとき、魂は魂と結びつき、二つの命は調和して融合する。神の天使たちがその家庭の客となり、彼らの聖なる祈りが結婚の平和を清める。(教会への証 5 巻 362)

天国の最も美しい型は、主のみたまが支配しておられる家庭である。(アドベンチスト・ホーム 4)

一生涯の結合

「彼らはもはや、二人ではなく一体である。だから、神が合わされたものを、人は離してはならない。」(マタイ 19:6)

結婚の誓いは、……ふたりの人間の運命を死の手のほか何ものも引き離すことのできないきずなで結ぶ。(教会への証 4 巻 507)

山上の垂訓で、イエスは結婚の誓約に対する不実以外のことでは、結婚のきずなは解消されないと言明された。「だれでも不品行以外の理由で自分の妻を出す者は、姦淫を行わせるのである。また出された女をめとる者も、姦淫を行うのである」とイエスは仰せられた(マタイ 5:32)。……

イエスは創造において制定されたものとして、結婚の制度に彼らの注意を向けられた。……神の栄光と人間の幸福のための二つの制度、すなわち結婚と安息日の起源がここにあった。その時、創造主は聖なる二人に結婚の契りを結ばせて、……このお方は世の終わりに至るまでのすべてのアダムの子らのために、結婚の律法を宣言された。永遠の父なる神ご自身がよしと宣言されたのは、人間にとって最高の祝福と発達の律法であった。人類の保管に委ねられたその他のあらゆる良い神の賜物と同じに、結婚も罪によってゆがめられたが、その純潔と美しさを回復するのが福音の目的である。(祝福の山 79)

男も女も結婚生活の初めにおいて、あらためて神に自らをささげなければならない。……

神のみたまが支配しているところでは、結婚関係が不適合であるという話はおきない。(アドベンチスト・ホーム 104, 123)

困難や困惑や失望に遭遇しても、その結婚が誤りであったとか失望であったとかいような気持ちを夫も妻も抱いてはならない。互いに相手に対してできるだけ最善のものとなるように決心なさい。最初のころの心づくしを継続し、人生の戦いを戦ううえにあらゆる面で互いに励まし合い、相互の幸福を増進するように研究なさい。相互の愛と忍耐が必要である。そうするならば結婚は愛の終結ではなく、出発点となる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 333)

神に支配していただく

「主が家を建てられるのでなければ、建てる者の勤労はむなしい。主が町を守られるのでなければ、守る者のさめているのはむなしい。」(詩篇 127:1)

神は……地球をよろこびと平和で満たしたいとお望みになった。神が人をお造りになったのは、人を幸福にするためであった。そして人の心を天の平和で満たしたいと願っておられる。神は地上の家庭が天の一大家族の象徴となるように望んでおられる。(キリストの実物教訓 268)

神のご計画どおりに設けられ、営まれるクリスチャンの家庭は、クリスチャン品性の形成とこのお方のみ働きの前進のための最も効果的な手段の一つである。(教会への証 6 巻 430)

家庭はことごとくそのことばが意味するところものとなるべきである。それは地上の小さな天国、すなわち、愛情をできるかぎり抑えつけられるよりもむしろこれを培う場所となるべきである。わたしたちの幸福は、お互いへの愛と思いやりと真の礼儀をこのように培うことにかかっている。(同上 3 巻 539)

あなたの家庭を、キリストが常客としておはいりになることのできるようなものとしなさい。あなたがイエスと共にいて、このお方から学んだことを人々がわかるような家庭としなさい。

家族が親切で、礼儀正しいクリスチャンである家庭は、善のために広範囲に及ぶ影響を及ぼす。他の家庭は、このような家庭の到達した結果に注目して、その模範に従い、今度は彼らが自分たちの家庭を悪影響に対して守るようになる。

天の御使たちは神のご意志が統治している家庭をしばしばおとずれる。神聖な恵みの力の下で、このような家庭は、疲れはてた旅人に元気を回復させる場所となる。自己は自ら主張することのないよう抑制され、正しい習慣が形成される。そこでは他人の権利が注意深く認められる。愛によって働き、魂をきよめる信仰が、舵をとって、家庭内を支配する。(サインズ・オブ・タイムズ 1904 年 2 月 17 日)

世の人々に提示し得るキリスト教の力の最高の証拠は、よく秩序だてられた、規律のとれた家庭である。これは他のなにものにもまして真理を推奨する。なぜなら、それは人の心に働く実際のな力の生きた証だからである。(教会への証 4 巻 304)

持続する愛

「愛は大水も消すことができない。洪水もおぼれさせることができない。もし人がその家の財産をことごとく与えて、愛に換えようとするならば、いたくいやしめられるでしょう。」(雅歌 8:7)

愛はわたしたちがイエスから受ける尊いたまものである。純潔な、聖なる愛情は、感情ではなく、一つの原則である。真の愛に基づいて行動する者は、不合理でも盲目でもない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 331)

キリストから発散する天来の愛は、人間の愛情をこわすことは決してなく、かえってそれを包含する。人間の愛はそれによって洗練され、きよめられ、高められ、高潔にされる。人間の愛情は、神性と結合し、天に向かって成長するように訓練されなければ、決して尊い実を結ぶことはできない。(アドベンチスト・ホーム 100)

真の愛は、強く激しい性急な情熱ではない。反対にそれは静かで深みのある性質のものである。それは単なる外見の向こうを見て、本質だけに惹かれる。それは賢明で分別があり、その献身は本物でいつまでも変わらない。(教会への証 2 巻 133)

キリストの愛で満たされている心は決して遠くに離れてしまうことはできない。宗教は愛であって、クリスチャンの家庭は愛が支配し、それが思慮深い親切ややさしい礼儀のあることばや行為にあらわされる場所である。(教会への証 5 巻 335)

わたしたちの家庭をベテル(神の家)にし、わたしたちの心を神の宮にしなければならぬ。魂に神の愛が大切にされているところはどこでも平和があり、光と喜びがある。(アドベンチスト・ホーム 7)

イエスは幸福な結婚、幸福な炉辺を見ることを望まれる。(同上 100)

もしキリストを助け手とするならば、男も女も、自分のために定められた神の理想に達することができる。人間の知恵でできないことを、このお方の恵みは、愛する信頼のうちに自らをキリストに捧げる人々のために成し遂げる。神の摂理は天から与えられた絆によって心と心を結ぶことができる。愛とは単に柔らかいおせじの交換ではない。天の織機は地上の織機で織ることができないほど一段と緻密(ちみつ)に、また堅実に縦糸と横糸を織り合わせ、その結果、薄い布でなく、もちのよい、試験や試練にも耐える織物となる。心は切れることがない黄金の愛の絆によって心に結びつけられる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 335)

宝石よりもはるかにすぐれている

「だれが賢い妻を見つけることができるか、彼女は宝石よりもすぐれて尊い。その夫は彼女を信頼して、収益に欠けることはない。」(箴言 31:10, 11)

家族の幸福は、妻であり母親である者に大いにかかっている。(教会への証 1 巻 306)

青年は妻の分としての人生の重荷を負うに適した人、その感化が自分を向上させ、精錬し、その愛が自分を幸福にするような人を伴侶として求めるべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 331)

結婚生活は必ずしもロマンスではない。それには現実の困難や退屈な仕事がある。妻は自分をめんどうを見てもらわなければならない人形だと思ってはならない。自分を一個の女性、空想的なものではなく実際の重荷を肩に負い、自己のこと以外に考えねばならぬことがあることをさと、理解のある、思いやりのある生活をすべきである。(アドベンチスト・ホーム 112)

どの婦人にとっても、家事の知識は、はかり知れない価値がある。妻であり母親である者の能力が欠けているために家庭の幸福が破壊されているケースがcazoえきれないほどある。(クリスチャン教育の基礎 74)

すべての女性は、家事の責任を処理することを学び、料理人、家政婦、裁縫師でなければならない。……一家の主婦が知らなければならないことはすべて理解していなければならない。(アドベンチスト・ホーム 89)

やむを得なければ、若い女性が、フランス語や代数あるいはピアノをひくことさえ、知らなければ知らないですますことはできるが、しかしおいしいパンを作ったり、からだにきちんとあった衣服を作ったり、その他家事に関するいろいろな務めをりっぱに果たすことを学ぶことだけは、どうしても必要である。(教育 256)

「賢い妻は主から賜るものである」(箴言 19:14)。「その夫の心は彼女を信頼して……」(同 31:11, 12)。「彼女は口を開いて知恵を語る、その舌にはいつくしみの教えがある。彼女は家のことをよくかえりみ、怠りのかてを食べることをしない。その子らは立ち上がって彼女を祝し、その夫もまた彼女をほめたたえて言う、『りっぱにことをなし遂げる女は多いけれども、あなたはそのすべてにまざっている』と」(同 31:26 ~ 29)。こういう妻をもった人は、「よき物を得る、かつ主から恵みを与えられる」のである(同 18:22)。(ミストリー・オブ・ヒーリング 331, 332)

テストに耐える愛

「彼はわたしを酒宴の家に連れて行った。わたしの上にひるがえる彼の旗は愛であつた。」(雅歌 2:4)

女性はいくらでも結婚する前に、自分が運命を共にしようとしている男性がそれにふさわしいかどうかを吟味しなければならない。彼の過去の記録はどうであるか。彼の生活は純潔であるか。彼の表現する愛は高潔で高尚な性質のものであるか、それとも単なる感情的な愛情であるのか。彼は彼女を幸福にするような品性の特質を持っているであろうか。彼女は彼の愛情の中に真の平安と喜びをみいだすことができるであろうか。彼女は自分の個性を保つことがゆるされるであろうか、それとも彼女の判断と良心は夫の支配に服さなければならないであろうか。キリストの弟子として、彼女は彼女自身のものではなく、価値をもって買われたのである。彼女は救い主のご要求を最高のものとして尊ぶことができるであろうか。体も魂も、思想も目的も、純潔に気高く保つことができるであろうか。こうした質問は、結婚関係にはいどの女性の幸福にとってもきわめて重要なかわりがある。(教会への証 5 巻 362)

神をおそれる、敬けんな両親に恵まれているならばその助言を求めなさい。自己の希望と計画を発表し、両親が生涯のうちに経験し、学んだ教訓を聞きなさい。そうすれば多くの心痛を防止することができよう。しかし、だれよりもまず、キリストを相談相手とし、祈りながらそのみ言葉を研究なさい。

こうした指導のもとに若い婦人は、純潔で男らしい性質をもち、勤勉で大望に燃え、正直で、神を愛し、おそれる人だけを配偶者として受け入れるべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 331)

心は人間の愛をしたうが、この愛はイエスの愛に代わるほど強いものでも、純潔なものでも、尊いものでもない。妻は人生の心配事や責任や不幸に応ずる知恵と力と恵みを救い主の中にだけ見出すことができる。彼女はこのお方を自分の力、道案内とすべきである。女性は自分をこの世の友に与える前に、まずキリストに自分自身を献げ、これに相反するような関係には入らないようにしよう。(教会への証 5 巻 362)

キリストのうちにあるときに初めて結婚の縁組は安全である。人間の最も親密な愛のきずなは神の愛から受けるべきであり、キリストが支配なさるところにのみ、深い真の無我の愛がありえるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 330, 331)

日光か陰か

「不信者と、つり合わないくびきを共にするな。義と不義と何の係わりがあるか。光とやみとなんの交わりがあるか。」(コリント第二 6:14)

今日神の民にからみつく最大の危険の一つは、不信心な者との交際であり、特に不信者との結婚である。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初刊・コメント] 2 巻 1000)

幾百の人々が、改心していない者と結婚したため、キリストと天とを犠牲にしまった。……結婚生活の幸福と繁栄は、当人たちの一致にかかっている。肉の思いがどうしてキリストの思いに同化している思いと一致できるだろうか。……嗜好においても、好みにおいても、目的においても、たえず相違がある。信者が固く原則を守ることによって、悔い改めない相手を勝ち得るのでないかぎり、往々にして失望し、天と何のつながりもない人とのみじめなまじわりのために宗教的原則を売り渡してしまう。(教会への証 4 巻 507, 508)

真理を公言する者は、不信者と結婚することによって神のご意志をふみつける。彼らは神の恩寵を失い、悔い改めのために苦い働きをする。不信心な者にもすぐれた道徳的な品性を持っているかもしれない。しかしその人が神のご要求に応じないで、これほど偉大な救いの計画をなおざりにしてきたという事実こそ、このような人と結婚してはならない充分な理由である。(同上 505)

ソロモンについて、聖書にはこう述べている、「その妻たちが彼の心を転じて他の神々に従わせたので、彼の心は……その神、主に真実ではなかった」(列王記上 11:4)。……ソロモンの背信という悲しい記憶を警告として、どの魂も同じ危険を避けるようにしよう。(SDA バイブル・コメント [E.G. 初刊・コメント] 2 巻 1031)

結婚を考える前に一日二回祈る習慣のあった男女は、結婚への歩みが予期される時には一日四回祈らねばならない。結婚は、この世においても来世においても、あなたがたの一生に影響を及ぼすものである。(青年への使命 462)

暗雲の晴れることのない家庭を持ちたくなければ、神の敵である人と結合してはならない。(教会への証 5 巻 363)

功を奏する協力

「キリストは教会のかしらであって、自ら、からだなる教会の救い主であられるように、夫は妻のかしらである。」(エペソ 5:23)

主は妻のかしらである夫が、彼女の保護者となることをお定めになった。彼は、教会のかしらであり、宗教的な団体の救い主であられるキリストのように、家族の者を一つに結ぶ家庭の帯金である。神を愛すると主張する夫たちはみな、彼の地位に関して神が要求しておられることを注意深く研究しなければならない。キリストの権威は、知恵のうちに、またことごとく親切とやさしさのうちに行使される。夫も教会の偉大な頭をまねて、彼の権利を行使しなければならない。(アドベンチスト・ホーム 233, 234)

夫は子供たちをしつける重荷の大部分が母親に負わされていることを覚えているべきである。……そのことによって夫のやさしい思いやりがあらわれ、夫は気をつけて妻の重荷を軽くするべきである。夫は妻が彼の大きな愛情にたよるよう励ますべきである。(教会への証 1 巻 307)

夫も妻も専横的な態度で相手に接してはならない。しいて自分の希望に服従させようとしてはならない。そうするとき、相互間の愛を保つことはできない。親切、忍耐、辛抱、思慮、礼儀をもちなさい。結婚の誓いに約束したように神の恵みによって相互を幸福にすることができる。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 334)

結婚、すなわち一生の結合は、キリストとキリストの教会との結合の象徴である。キリストがご自分の教会に対して示される精神は、夫と妻が互いに示しあわなければならない精神である。もし彼らが神を最高に愛するならば、彼らは主にあって互いに愛し合う……であろう。お互いに自己を否定し、自己を犠牲にすることによってふたりは、お互いに相手の祝福となる。……

神は家庭が地上で最も幸福なところであり、天の家庭の象徴そのものであることを望んでおられる。家庭における結婚の責任を負い、自らの関心をイエス・キリストに結びつけ、このお方のみ腕と約束に頼りながら、夫と妻は神の御使が推奨する結婚において幸福をわかち合うことができる。結婚は彼らの有用性を減少せずに、それを強化する。(アドベンチスト・ホーム 93, 102)

王と王妃

「家は知恵によって建てられ、悟りによって固くせられ」(箴言 24:3)

イスラエル人に対する神の計画は各家庭が十分に耕作しうる面積がある土地に家を持つことであった。こうして有益勤勉な自給自足の生活への手段と動機が与えられた。それ以来、人間が考えたどの考案も、この計画以上に進歩を示したものはなかった。(ミストリー・オブ・ヒーリング 159,160)

大地は、その宝を集める勇気と意志と忍耐とを持っている者のためにその深いところに祝福をかくしている。少しばかりの土地と快適な家庭を所有している父親と母親は、王と王妃である。(クリスチャン教育の基礎 326, 327)

高価な家屋、念の入った家具、装飾、奢侈(しゃし)、安逸は、幸福で有益な生活の重要条件をみたまものではない。イエスは今まで人類の間でなされた働きの中で一番大きな働きをするためにこの世界にこられた。イエスは神の大使として、人生の最大の結果を得る生活法をお教えになるためにおいでになった。神である父がそのみ子のために選ばれた環境とはどんなものであったろうか。ガリラヤの丘の上の人里離れたところにある家、正直で尊い労働によってささえられた家庭、単純な生活、苦難と労苦をともなった日々のたたかい、克己、経済、忍耐、喜びにあふれた奉仕、母のそばでの聖書研究の時間、緑の谷間の静かな暁やたそがれ、清い自然界の感化、創造と摂理の研究、神との魂のまじわり――これらがイエスの若い時代の環境であり、機会であった。……

楽しい家庭をつくることを第一の目標とし、楽しく働き、健康を増進し、生活を楽にする手段を必ず講じ……なさい。……

飾り気がなく単純なもので、また使用に耐え、たやすく清潔にすることができ、高い金を使わずに、代わりの品が買えるもので家庭の設備をしなさい。もし愛と満足さえあれば、非常に簡素な家でも趣味を働かせることによって魅力的な感じのいいものにすることができる。(ミストリー・オブ・ヒーリング 337～340)

家庭の最上の宝

「あなたの妻は家の奥にいて多くの実を結ぶぶどうの木のようにあり、あなたの子供たちは食事をかこんでオリブの若木のようなのである。」(詩篇 128:3)

子供や青年は神の特別な宝である。(7ドベンチスト・ホーム 313)

二人だけで家族を構成し、……忍耐と寛容と真の愛を働かせることを必要とする子供のいないところでは、利己心が最上位を得ることがないように、絶えず警戒する必要がある。自分自身が中心となり、自分だけに注意や世話や関心を要求しながら、同じことをほかの人に対して自分がそうした義務を何も感じないことがないためである。(教会への証 2 巻 231)

頼っている子供たちへの世話や愛情は、わたしたちの性質から粗野なものを取り除いて、やさしく思いやり深い者にし、わたしたちの品性のもっと気高い要素を発達させる影響を及ぼす。(同上 647)

エノクは、彼の長男の誕生後、さらに高い経験に達し、神とさらに密接な関係にはいっていった。彼は神の子として、自分に与えられた義務と責任を、もっと深く自覚した。子供が父を愛し、父の保護に単純に信頼するのを見たとき、そして、長男に対して深い愛情を自分の心に感じたときに、彼は、そのみ子を人間に賜った驚くべき神の愛と、神の子らが天の父に対して持たなければならない信頼に関して、尊い教訓を学んだのである。(人類のあけぼの上巻 80, 81)

わたしは……どの子供に対してもやさしい関心を持っている。わたしはたくさんの子供を引きとってめんどろを見たが、子供たちの単純さと交わることが自分にとって大きな祝福であることをいつも感じていた。……

子供たちを扱うにあたって必要な同情と忍耐と愛はどの家庭にとっても祝福である。それはもっと快活さと落ち着きの必要な人々の性質の傾向をやわらげ静める。子供のいる家庭はそのことによって楽しくされ洗練される。主に対する恐れの中に育った子供は幸福である。……

あなたのむすこやむすめたちは神の家族の若い一員である。……神は天のために育て訓練し教育するよう彼らをあなたにおゆだねになったのである。(7ドベンチスト・ホーム 168, 169)

キリストを信じる幼い子供の魂は、神にとってそのみくらの周囲にいる天使と同様に尊い。(同上 311)

どのような種類の嗣業か

「マノアは言った『あなたの言われたことが事実となったとき、その子の育て方およびこれになすべき事はなんでしょうか。』」(士師記 13:12)

マノアの妻に語られた言葉には、今日の母親たちが学ぶのに有益な真理が含まれている。(食事と食物に関する勧告 201)

子供は、母親の習慣によって、よい影響を受けることもできるし、悪い影響を受けることもできる。母親は、子供の幸福を願うならば、彼女自身が原則に支配され、節制と自制を実行しなければならない。(人類のあけぼの下巻 209)

子供が生まれる前に、もし母親が情緒不安定であり、自分本位で気むずかしく、きびしいと、子供の気質は母親の間違った歩みを受けつぐようになる。……しかし、もし母親が正しいことを堅く守り、親切でやさしく他人を思うなら、彼女はそのような品性の特性を子供に与える。(サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 2 月 26 日)

母親と同様に父親にも、この責任が負わされている。両親は、彼ら自身の知的、体的特徴、性質、要求などを子供たちに伝える。……どの父親も母親も、「わたしたちがその生まれる子になすべきことを教えてください」とたずねなければならない。多くの者は、生まれる前の影響ということを軽視している。しかし、天からヘブルの両親に与えられ……た教えによれば、創造主がこのことをどのようにご覧になるかがわかる。(人類のあけぼの下巻 210)

子供たちにとって適切な教師である母親は、子供の生まれる前に、克己と自製の習慣を形成しなければならない。なぜなら彼女自身の特質、品性の長所と短所を彼らに伝えるからである。魂の敵は、この問題を多くの親たちよりもはるかによく理解している。もしも母親が抵抗しなければ、彼女を通してその子供に影響を及ぼすことができることを知って、母親に誘惑を持ちかけるのである。母親の唯一の希望は神にある。神の御許に逃れて、恵みと力を得ることができる。助けを求めることは、決して無駄にはならない。神は、子供たちがこの人生で成功し、また永遠の生命を獲得するための助けになるような特質を彼らに伝えることができるようにして下さるのである。(食事と食物に関する勧告 201, 202)

青少年の模範

「幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがその上にあった。」(ルカ 2:40)

イエスはわれわれの模範である。……イエスが子供や青年たちの模範であったのは、その家庭生活であった。(各時代の希望上巻 68)

イエスの母が、イエスの最初の人間教師であった。彼女の口と預言者たちの巻物から、イエスは天の事物について学ばれた。……彼が聖書に精通しておられたということは、少年時代にどんなにまじめに神のみことばを学ばれたかを示している。……イエスは幼い時から一つの目的を持っておられた。それは他人を祝福するために生きるということだった。(同上 61～63)

青年時代にこのお方は父親と一緒に大工の仕事をなさった。……子供時代からイエスは従順と勤勉の模範であり、家庭の輪の中で気持ちの良い太陽光線のようにであられた。このお方は忠実に快活に、その身分の低い生活の中で果たすように求められたつつましい義務を行なって、ご自分の役割を果たされた。(ユース・インストラクター 1895 年 11 月 21 日)

キリストの生活は謙遜で、気取りや見せかけがなかった。このお方はほとんど戸外で過ごされた。……小鳥やあざやかな美しさで野を装っている野生の花、大木や高い山々、粗い岩や永遠の丘など、すべてのものがこのお方にとって特別な魅力であった。……人の目からはなれて、このお方は天父とまじわられた。その道徳的な力は、瞑想と神との交わりによって強くされた。(同上 1873 年 9 月 1 日)

キリストの模範にならうことを学んで、キリストの命を喜びをもって飲むにはどうすればよいかを、協力して子供たちに教えることは……親の尊い特権である。救い主は少年時代によく人を助けられた。家庭では母親を手助けされた。彼は家庭内の仕事をしたり、大工の作業台で働いておられたとき、公の伝道に従事しておられたときと同じように彼の使命を果たしておられた。(7ドベンチスト・ホーム 324)

キリストがそのいやしい家庭において示された忠実と従順の模範にならう青年はだれでも、天父がイエスについて聖霊を通しお語りになった次のことばを自分のものとすることができる。「わたしの支持するわがしもべ、わたしのよろこぶわが選び人を見よ」(イザヤ 42:1)。(各時代の希望上巻 69)

すべてにまさる崇高な働き

「われらのむすこたちはその若い時、よく育った草木のようです。われらの娘たちは宮の建物のために刻まれたすみの柱のようです。」(詩篇 144:12)

地上での最も愛情のこもったきずなは母と子との間のきずなである。(クリスチャン教育の基礎 153)

どの母親も自分に託された子供のことで、神から与えられた神聖な責任を持っている。「このむすこ、娘をわたしのために教育しなさい。永遠に神の宮で輝くようにその品性を宮殿のようにみがきなさい」と、神は言っておられる。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 347)

形成し、洗練し、磨く仕事は、母親の仕事である。子供の品性は発達させられなければならない。母親は心の板に永遠に残る教訓を彫りつけなければならない。(アドベンチスト・ホーム 256)

子供をしつけることは人間にゆだねられた最も大きな働きである。子供は主のものであって、母親の腕にいだかれている赤ん坊のときから主のために訓練されるべきである。(レビュー・アド・バード 1902 年 7 月 8 日)

家庭は子供にとって世界中で最も魅力的な場所であり、母親の存在は最大の魅力であるべきである。……母親は愛のこもった言葉と行為と優しいしつけをもって子供を自分の心に結びつけることができる。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 358)

天には神がおられ、そのみ座から出る光と栄光は子供が悪の力に抵抗できるようにと教育に努力している忠実な母親の上にくだる。これほど重要な働きはほかにはない。母親は画家が画布の上に美しい肖像をえがき、彫刻家が大理石を刻むのと違う。また著述家が力強い言葉でりっぱな思想を表現したり、音楽家が美しい感情をメロディーに表現したりするのとも異なり、神の助けによって人の心の中に神のごとき姿を育てるのが母親の仕事である。(同上 348)

王座に座っている王でも、母親より高貴な仕事は持っていない。母親は家庭の女王である。子供たちをより高い永遠の生活にはいるにふさわしい者となるように彼らの品性を形成する仕事は彼女の手にある。天使ですらそれ以上高貴な仕事を求めることはできなかった。(アドベンチスト・ホーム 254)

家庭の帯び金 (ハウスバンド)

「父たる者よ。子供をおこらさないで、主の薫陶と訓戒とによって彼らを育てなさい。」(エペソ 6:4)

母親の働きは偉大なものであるが、父親もまたその子供たちの教育、しつけにおいて、果たすべき役割があることを決して忘れてはならない。……とくに子供たちの年齢が進むに従い、彼らを抑え、しつけて、指導するために、母親の力と一緒に父親の影響が必要となる。(サインズ・オブ・タイムズ 1881 年 11 月 10 日)

クリスチャンの父親は自分の家族を神のみ座に結びつける、彼らの帯び金 (ハウスバンド) である。彼の子供たちへの関心は決して薄いではない。男の子を持つ父親は、この休むことを知らない男の子たちを母親の世話にだけまかせてはならない。……彼は男の子の仲間となり友達となり、彼らが悪い仲間から守るように努力すべきである。……父親はもつと自ら重荷を引き受け、男の子を神に導くために、全力を尽くすべきである。(レビュー・アンド・ヘルド 1902 年 7 月 8 日)

子供たちが自制心を失って、ひどく感情的なことを出すとき、両親はしばらく沈黙すべきである。……沈黙は金であり、どんな言葉を発するよりも彼らを悔い改めにみちびく力がある。親が厳しく怒る言葉を口にするによって、子供をいらだたせるとき、サタンは非常に喜ぶ。……「父たる者よ、子供をいらだたせてはいけな。心がいじけるかも知れないから」(コロサイ 3:21)。……あなたの冷静さが、子供たちの気持ちを正常な状態へ回復するのを助けるようにしなさい。(サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 1 月 1 日)

親切で賢明な扱いによって父親も母親と同様に、尊敬と、感謝と、愛の強いきずなで子供たちを自分たちに結びつけ、彼らの若い心に義と真理への熱心な切望を燃え立たせるべきである。母親がよい原則を植えつけようと努力するとき、父親はその尊い種が悪の成長によって妨げられないように見張るべきである。子供たちが堅固さと自制を学ぶことができるように、父親のより厳しいしつけが必要である。……

クリスチャンである父親方よ、自分の子供たちの幸福のためにやさしく忍耐強く労しなさい。子供たちの心を義の太陽なるお方の明るい光線へ向けるよう努力しなさい。教訓と模範によって、キリストの精神は善を行う精神であることを彼らに教えなさい。(サインズ・オブ・タイムズ 1881 年 11 月 10 日)

統治の手綱をにぎる

「子たる者よ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことである。」(エペソ 6:1)

神のみこころが天の律法である。その律法が生活の原則であるかぎり、神の家族はみなきよく、幸福であつた。しかし神の律法にそむいたとき、羨望、ねたみ、争いが入ってきて、天の住民の一部の者が天から落ちてしまった。地上にあるわたしたちの家庭においても、神の律法が尊ばれるかぎり、家族は幸福なのである。(家庭教育 67, 68)

子供が第一に学ばなければならない教訓の一つは服従という教訓である。子供がまだ充分に道理をわきまえることのできない年ごろからでも、服従ということは教えられるものである。(教育 338)

母親は家庭の女王であり、子供たちは彼女の臣下である。彼女は母親としての威厳をもって、家庭を賢明に治めなければならない。家庭における彼女の影響は最高のものでなければ……ならない。(アドベンチスト・ホーム 254)

わがまをしまらないで許しておいてはならない。その子の将来の幸福には、思いやりがあり愛情に満ちていながら、確固としたしつけを必要とする。……子供を本人の思い通りに放っておくことから生ずる害悪は言葉に表すことができない。(両親、教師、生徒への勧告 112)

衝動的な治め方—あるときにはきびしくし、あるときには禁じていることを許容するようなやり方—は、子供を破滅させる。(アドベンチスト・ホーム 347)

どの家族の規律にも、一様な堅固さと感情的でない統制が必要である。あなたが意図していることを落ちついて話し、思慮深く行動し、あなたの言うことをずれることなく実行しなさい。(教会への証 3 巻 532)

親の要求は常に筋が通っているべきである。優しさは愚かなあまやかしではなく、賢明な指導によって表わされるべきである。親はしきつたり、とがめだてたりしないで、気持ちよく子供たちを教え、愛という絹のひもによって子供たちの心を自分たちに結びつけるようにつとめるべきである。(両親、教師、生徒への勧告 158, 159)

権威と愛の感化力が結合していれば、家庭をしっかりと同時にやさしく治めることができる。神の栄光とわたしたちの子供が神に対して負っているものにひたすら目をとめるとき、わたしたちは手ぬるさや悪を許容することから守られる。(アドベンチスト・ホーム 344)

愛情という絹のひも

「互いに情け深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互いにゆるし合いなさい。」(エペソ 4:32)

「愛をもって互にいつくしみ」という命令の教える原則は(ローマ 12:10)、家庭の幸福の基本をなすものである。(アドベンチスト・ホーム 479)

不親切、不平、怒りはイエスを住まいから閉め出す。不愉快なことばやいらだち、争いのある家から神の天使たちが逃げ出すのをわたしは示された。(教会への証 1 巻 307)

ていねいな物腰、きげんのよい会話、および愛情に満ちた行動は、子供たちの心を愛情という絹のひもで両親に結びつける。そして金で買えるどんな稀少価値のある装飾品よりも家庭をもっと魅力的なものにする。(アドベンチスト・ホーム 485)

やさしい愛情が夫と妻、両親と子供たち、兄弟姉妹の間にいつも大切にされるべきである。どのような性急なことばも抑え、お互いへの愛が欠けている様子にならないようにすべきである。……子供たちは両親を尊敬し、敬うべきであり、両親は子供たちに忍耐とやさしさと愛情を表わすべきである。各自があらゆる方法によって家庭の輪の中にいる者を喜ばせ、幸福にするよう努めるべきである。(サインズ・オブ・タイムズ 1892 年 11 月 14 日)

親切な行為は……お互いの心を結びつけ、すべて寛大な思いの源であるおかたの心に人々を近づける。花から流れるかおりのように静かに生活から流れ出るわずかな心づかいや愛と自己犠牲の小さい行為—こうしたものが少なからず人生の祝福と幸福に寄与する。(祝福の山 101)

ああ、なんと柔らかな美しい光がわたしたちの救い主の日々の生活のうちに輝き出たことであろう。なんとにかくわしさがそのみ前に漂っていたことであろう。この同じ精神がその子らのうちに表わされるであろう。キリストがともにお住みになる者は、聖なる雰囲気にも包まれるであろう。純潔という彼らの白い衣は、主の園のかぐわしいかおりを放つであろう。彼らの顔は主の光を反映し、つまづき疲れ切った足の進む道を照らすであろう。(同上 168)

共に働く

「互いに重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう。」(ガラテヤ 6:2)

子供も両親と同じく家庭においては重要な義務がある。彼らは家庭という会社の社員であることを学ばなければならない。彼らは養育され、衣類を与えられ、愛され、世話されているのであるから、自分の家庭の重荷を分担して、おのが分を尽くし、自分が一員となっているその家庭にできるだけ幸福をもたらし、こうした数々の恩恵にこたえるべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 363)

幼い子供でも、毎日の仕事を分担するようにしつけ、彼らの手伝いが必要であり、また喜ばれているということを感じさせるべきである。年長の子供たちは両親の計画に加わり、その責任と重荷を分かちあい、親の助け手となるべきである。父親と母親が子供たちを教えるための時間をとり、また自分たちが彼らの助けに価値を認め、彼らの信頼を望んでおり、彼らとの交わりを楽しんでいることを示すなら、子供たちはすぐに反応する。両親の重荷が軽くなり、子供たちがはかり知れない価値のある実地訓練を受けるばかりでなく、家族のきずなが強められ、品性の基礎そのものが深められる。(ユース・インストラクター 1905 年 2 月 28 日)

仕事は子供に有益である。彼らは役に立つ仕事をして時間の大部分をすごすほうが、幸福である。彼らは仕事をりっぱにやりとげた後のほうが、その無邪気な遊びをもっと強い喜びをもって楽しむ。労働は頭脳と筋肉の両方を強める。母親たちは子供たちをよい助け手に仕立てることができる。(アドベント・ホーム 320)

家庭生活の義務で自分の役割を気持ちよく果たし、父母の重荷を分かちあう子供たちの上に、神の是認が愛情に満ちた保証をもってとどまる。(両親、教師、生徒への勧告 148)

日常の小さな義務をくりかえして行うことは、主が子供たちのために指示された道で……あることを、子供たちに教えるならば、彼らの仕事はどんなに楽しく尊いものとなることであろう。すべての義務を主のためにするように行うことは、どんなにいやしい仕事をも魅力あるものにし、地上の働き人を、天で神のみこころを行う天使たちと結合させるのである。(人類のあけぼの下巻 229)

「わたしはあなたの子らを救う」

「しかし主はこう言われる、『勇士がかすめた捕虜も取り返され、暴君が奪った獲物も救い出される。わたしはあなたと争う者と争い、あなたの子らを救うからである』」（イザヤ 49:25）

若い人たちはサタンの特別な攻撃的である。（福音宣伝者 207）

どちらを向いても戦いは絶え間なく続いている。……大勢の若者が圧倒的な悪の潮流に押し流される。すべてのまじめなクリスチャンの心の中に、「どうして、ああ、なぜ聖書とキリストの教えの地で、魂の敵が青年たちにこんなにも強大で無制限な力をふるうことができるのか」という疑問が起る。理由ははっきりしている。親が彼らの厳粛な責任をおろそかにしているからである。（サインズ・オブ・タイムズ 1881 年 11 月 3 日）

畑を耕さないで放っておけば、必ず雑草がはえてくる。子供たちの場合も同様である。心の土を耕さないでおくと、サタンが怒りと憎しみ、利己心と誇りという彼の種をまき、それらがたちまち芽を出して、親がにかい悔恨をもって刈り取る収穫を生ずる。彼らが自分たちの大変なまちがいを認めたときは手遅れである。（同上 1902 年 1 月 1 日）

「終りの時」のしるしの一つは、子供が親に従わないことである。（家庭の教育 234）

親の権威に対する反抗という罪が、今日の世界における悲慘と犯罪の根底となっている。（SDA バイブル・コメント [E.G. ホワイト・コメント] 2 巻 1099）

イエスは子供と若者を愛しておられる。このお方は彼らを征服しようとするサタンの努力がしりぞけられるのをごらんになるときお喜びになる。多くの若者が、多方面にわたる誘惑による差し迫った危機に直面しているが、救い主は彼らにこのうえなくやさしい思いやりを持ち、ご自分の御使をつかわして彼らを守り、保護してくださる。このお方はよい羊飼いであり、いつでも……迷子のさまよう羊を探す用意ができておられる。（サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 1 月 1 日）

両親は子供たちに対して神の立場に立っているので、彼らは自分たちの義務としてまかされた責任に対して忠実であつたかどうかを主に弁明しなければならない。（レビュー・アンド・ヘルド 1875 年 10 月 14 日）

〔クリスチャンの両親方よ〕、あなたがたの責任に忠実でありなさい。神はあなたがたを助けてくださる。このお方に導かれて、あなたの子供たちはこの世においても来るべき世においてもあなたを祝福し、尊ぶために成長する。（サインズ・オブ・タイムズ 1902 年 1 月 1 日）

幼子はクリスチャンになることができる

「するとイエスは言われた、『幼子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である。』」（マタイ 19:14）

神は幼い年齢のどの子供も神の子となり、ご自分の家族に加えられることを望んでおられる。彼らは幼くても、信仰の家族の一員となり、最も貴重な経験を行うことができる。（両親、教師、生徒への勧告 169）

光がわたしの心に射し込んだとき、わたしは 11 才であった。わたしには信心深い両親がいて、あらゆる方法で子供たちに天の父を知らせようとした。わたしたちは家族全員で神を賛美する歌を歌った。毎朝毎夕、家族そろって祈りをささげた。わたしたちの家には子供が 8 人いたが、両親はあらゆる機会を用いて、わたしたちが自分の心をイエスに捧げるように導いた。（ユース・インストラクター 1908 年 11 月 3 日）

子供たちは福音の教えの影響を最も受けやすい。彼らの心は神聖な感化力に対して開かれており、受けた教訓をずっととどめておくものである。小さな子供もクリスチャンになり、その年齢にしたがって経験を得ることができる。

生活態度に真に神をあらわし、神の約束やいましめが子供のうちに感謝と敬神の念を起こさせる両親、優しさ、正義、忍耐によって神の愛と正義と忍耐を子供に伝える両親、愛し、信頼し、服従することを子供に教えることによって天の父を愛し、信頼し、服従するように教えている両親は幸福である。こうしたたまものを子供に与える親は、世のどんな宝よりも尊い宝、永遠に残る宝を子供に授けることになる。（ミストリー・オブ・ヒーリング 347）

バプテスマを受けられるほど大きくならなければ神の子供ではないなどと、決して子供たちに思わせてはならない。（家庭の教育 543）

もし適切に教えてもらうなら、幼い子供でも罪人としての自分の状態と、キリストによる救いの道について正しい見解を持つことができる。（教会への証 1 巻 400）

愛と信仰と祈りによって親たちは家族の者のために働き、ついには喜びつつ神のところへきて、「見よ、わたしと主がわたしに賜った子たち」と言うことができるようにしよう（イザヤ 8:18）。（キリストの実物教訓 175, 176）

神のみ言葉の宴

「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについて語らなければならない。」(申命記 6:6, 7)

天の父なる神は、み言葉をお与えになる際に、子供たちを無視なさらなかった。人間の書いたあらゆるものの中で、聖書の物語ほど幼い者たちの心をとらえ、その興味を呼び起こすように書かれたものが他にあるだろうか。聖書のやさしい物語の中には、神の律法の大原則がはっきり示されている。(教育 220)

安息日学校は親と子供たちが神のみ言葉を学ぶとうい機会を提供している。……両親方よ、子供たちとの安息日学校教科の学びのために毎日時間を少し取りなさい……子供と同様両親もこの研究から益を受ける。教科と関連している聖書の中の大切な聖句を義務としてではなく特権として暗記しなさい。……

家族で聖書の学びを組織だてて続けなさい。世俗的な性質のものはどれを怠ってもかまわない……しかし、必ず魂が命のパンで養われるようにしなさい。(安息日学校への勧告 43)

神の御言の宴から得られる益はたくさんある。……自製の習慣が形づくられ、強められる。幼児期の欠点—いらだち、強情、利己心、性急なことば、感情的な行動—などが消え、その代わりにクリスチャンとしての青年男女の品位が養われる。(両親、教師、生徒への勧告 207)

わたしたちは聖霊を、自分たちを啓発するお方として認める必要がある。この御霊は子供たちに話しかけ、彼らに御言の宝と美とを発見させてくださる。大教師によって語られたみ約束は、子供の知覚力を捕らえ、その魂を神からの霊的な力で活気づける。感受性のある思いには神聖な事柄への親しみが育ち、それは敵の誘惑に対する防御となる。(同上 172)

一日の最も楽しい時間

「主よ、朝ごとにあなたはわたしの声を聞かれます。わたしは朝ごとにあなたのためにいけにえを備えて待ち望みます。」(詩篇 5:3)

すべての家が祈りの家でなければならなければならない時があるとすれば、それは今である。(人類のあけぼの上巻 148)

どのクリスチャン家庭においても朝夕の祈りと賛美の犠牲によって、神があがめられるべきである。子供たちに、祈りの時間を尊重し、敬うことを教えるべきである。朝に夕に熱心な祈りとたゆまぬ信仰によって子供たちのまわりに垣根を作るのは、クリスチャンの両親の義務である。(両親、教師、生徒への勧告 110)

朝夕の礼拝は、一日の中で最も楽しくまた最も有益なひとときでなければならない。礼拝の時には心配事や不親切な思いに妨げられてはならないことや、イエスに会うためにまた聖天使たちを家の中に迎えるために親子が集まっているのだということを理解しなければならない。礼拝は、短時間で活気にみち、折にかない、時々変化のあるものでなければならない。聖書研究にはみんなが加わり、神の律法を学んで幾度もこれをくりかえさなければならない。(教育 221)

家庭という教会で、子供たちは神に祈り神に信頼することを学ぶべきである。……やさしさのあふれた心で、あなた自身と子供たちの前に誘惑と危険があるという自覚をもって、謙遜な思いのうちに神のみ前に出なさい。信仰によって子供たちを祭壇に結びつけ、彼らのために主の保護を嘆願しなさい。子供たちが単純な言葉で祈りをささげるように訓練しなさい。神は子供たちがご自分に求めることをお喜びになると教えなさい。

天におられる主はこのような家庭を通り過ぎて、祝福をお与えにならないことがあろうか。決してそのようなことはない。奉仕の天使たちはこのように神にささげられている子供たちを守る。彼らは賛美のささげものと信仰の祈りを聞く。そして、聖所でご自分の民のために仕え、彼らのためにご自分の功績を提供しておられるお方の許へ願い事をたずさえていく。(両親、教師、生徒への勧告 110)

聖書の物語やたとえ話の美しい教訓、神の聖なる御言の清い単純な教えは、あなたがたとあなたがたの子供たちのための霊的食物である。なんとという大切な働きがあなたがたの前におかれていることであろう。あなたは神への愛と畏れをもってそれにとりかかるであろうか。(家庭の教育 550)

人生行路を歌いつつ

「祭りの日の喜びの声を知る民はさいわいです。主よ、彼らはみ顔の光の中を歩み」(詩篇 89:15)

イスラエルの国民が荒野の旅にあつて、聖歌の音楽によって道中励まされたように、今日も、神はご自分の民が人生の旅を楽しむように命じておられる。神のみ言葉を記憶するためには、それを歌にしてくり返すことが何よりも効果的な方法である。このような歌はふしぎな力を持っている。それは、粗野で無教養な性質を和らげる力を持ち、……行動の一致を促す。……歌は霊的な真理を心に印象づけるのに、最も効果的な方法の一つである。押しつぶされて絶望しかかっている魂が、長い間忘れていた子供時代の歌の文句を聞いて、ふと神のみ言葉を思い出し、そのために誘惑が力を失う。……家庭で、美しい純潔な歌がうたわれるとき、人をとがめだてる言葉は少なくなり、快活さと希望と喜びの言葉が多くなる。(教育 197, 198)

イエスはご自分の労働に快活さと気転をもちこまれた。……たびたびイエスは詩篇や天の歌をうたって心の喜びを表明された。ナザレの住民たちはイエスが神への賛美と感謝をささげられる声をたびたび聞いた。イエスは歌を通して天とまじわられた。仲間の者たちは、働きに疲れて不平を言うと、イエスの口から出る美しい歌の調べに元気づけられるのであった。イエスの賛美は悪天使を追い払い、香煙のようにその場をかおりで満たすように思われた。(各時代の希望上巻 67)

歌声でイエスは朝の光を歓迎なさった。彼はひばりが神への音楽をさえずるのを聞いて、それに感謝と賛美の声を合わせられた。(SDA バイブル・コメント [E・G・柯什・コウト] 5 巻 1117)

歌は失望する時にいつでも用いることのできる武器である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 232)

天では感謝と賛美と歓喜の声が聞かれる。地上の神の子らが与えられた大いなる救いに対して神と小羊に誉れと栄光と賛美を帰するとき、天においては天使たちがその声を彼らの声に合わせる。(両親、教師、生徒への勧告 276)

われわれが彼らの輝く列につらなるときにそれを歌えるように、今、天使の歌を学ぼう。(人類のあけぼの上巻 333)

特別な日

「わが安息日を聖別せよ。これはわたしとあなたがたとの間のしるしとなって、主なるわたしがあなたがたの神であることを、あなたがたに知らせるためである。」
(エゼキエル 20:20)

安息日をわたしたちの家族にとって非常に興味深いものとし、毎週めぐつてく
ることをよろこんで迎えるようにすべきである。(教会への証 2 巻 585)

安息日学校と礼拝の集まりは安息日の一部を占めているだけである。家族に
のこされている部分は、安息日のすべての時間のうちで最も聖なる、尊い時とす
ることができる。(同上 6 巻 358)

子供たちの心の中に、安息日についての思いが、自然の美しい事物とむすび
ついていなければならない。……自然という書物の開かれたページから実例を引
いて神のみ言葉である聖書を子供たちに教え、新鮮な清い大気の中で緑の木陰
に集まって、天の父なる神のみ言葉を学び、賛美の歌をうたうことのできる父母
は幸福である。(教育 297)

天気の良い時には両親は子供たちと野や木立を散歩しなさい。自然界の美し
い事物の中で安息日の制度の理由を子供たちに説明しなさい。神の偉大なる創
造のみわざを彼らに語りなさい。この地球が神のみ手より生じたととき、それはきよ
く美しかったことを彼らに教えなさい。一つ一つの花や灌木や木々が創造主のご
目的にかなっていた。……神の完全なみわざを台無しにしたのは罪であったこと、
またいばらやあざみ、悲しみや痛みや死は、すべて神への不従順の結果であるこ
とを教えなさい。この地上は罪ののろいによって損なわれているとはいえ、なおど
れほど神のいつくしみ深さをあらわしているかを見るように子供たちに命じなさい。
(教会への証 6 巻 358)

もしわたしたちが周囲の自然界の美しさに相応する魂の美しさを自分たちの
うちに育成することができるなら、天と人との働きが調和するであろう。(手紙
132, 1900 年)

太陽が沈むとき、祈りの声と賛美の歌声をもって聖なる時間の終わりに印をつ
け、労働の一週間に神のご臨在があるように願い求めよう。

こうして両親は安息日を、あるべき通りに、一週間の中で最もよろこばしい日
とすることができる。両親は子供たちがその日を、よろこびの日、特別な日、尊
ぶべき主の聖なる日と考えるように導くことができる。(教会への証 6 巻 359)

天の王衣

「幼子でさえも、その行いよって自らを示し、そのすることの清いか正しいかを現す。」(箴言 20:11)

子供に残すどんな財産よりもすぐれてよいのは、健康な身体と健全な頭脳とりっぱな品性である。(ミストリー・オブ・ヒーリング 338)

乳児期や小児期に学んだ教訓や形成した習慣は、その後ほどこされるいかなる教育訓練よりも、品性の形成とその生涯を支配するのに関係がある。(同上 350)

イエスの少年時代を通して与えられている聖なる模範に従って子供や若者の品性を形成するために必要な祝福を神は与えずにおくことはない。(ユース・インストラクター 1894 年 8 月 23 日)

イエスの霊的成長とともに、そのおからだについては、「幼子はますます成長して」、「背丈ものび」と表現されている。幼児期や青少年期には、体の成長に注意が払われねばならない。親は子供たちが、飲食、衣服、運動などに良い習慣をつけて、将来の健康の……ための良い基礎を築けるよう、訓練してやらねばならない。……こうすれば青少年は好ましい状態におかれ、適切な宗教的訓練の下に、キリストのように霊的に強くなることができる。(家庭の教育 187, 188)

青少年や幼い子供たちに、天の織機で織られた高貴な衣、すなわち地上のすべての聖者たちに着ることを許される「光り輝く、汚れのない麻布の衣」を自分のためにえらぶことを教えるべきである。キリストの汚れのない品性をあらわすこの衣は、すべての人に無償で与えられる。しかしこの衣を与えられる人は、みなこの世において、これを受けとって身につけるのである。

子供たちが心を開いて、純真な愛の思いをもち、人の助けとなる愛の行為をするとき、彼らは自らキリストの品性という美しい衣を身につけるのであるということ、を、教えなければならない。この衣服は、この世において彼らを美しく愛せられる者とし、来世においては、彼らが王なるキリストの宮殿に入るための資格となるのである。キリストの約束は、「彼らは白い衣を着て、わたしと共に歩み続けるであろう。彼らは、それにふさわしい者である」とある。(教育 294, 295)

逃れの場所

「旅人をもてなすことを忘れてはならない。このようにして、ある人々は、気づかないで御使たちをもてなした。」(ヘブル 13:2)

わたしたちの同情は、自己の境界や家族の壁のわくからあふれ出なければならぬ。自分の家庭を開いて他人の祝福とする人には尊い機会がある。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 327)

わたしたちは罪と誘惑の世にある。いたるところにキリストを知らないで死んでゆく魂がいる。神はわたしたちがあらゆるかぎりの方法で彼らのために働くように望んでおられる。もしあなたが快い家庭を持っているなら、家庭のない青年や、助けを必要としている人々や、思いやりと親切なことばと、尊敬と礼儀を切望している人々を家に招きなさい。(教会への証 6 巻 348)

わたしたちの家は誘惑にあった青年の避難所でなければならない。道の分かれ目に立っている人が多い。一つ一つの感化力や印象が、現在および今後の運命を形成する選択を決定している。悪が彼らを招いており、その手段はまばゆく魅力的である。それらは、やってくる者をだれでも歓迎する。わたしたちの周囲には家庭のない青年、また家庭があっても、それが何の助けにはならず、向上させる力となっていない家庭の青年が多く、悪の方へ押し流されてしまうのである。
.....

こうした青年に同情の手がさしのべられなければならない。……もし……したいと思うなら、自分の家庭に招き、喜びにあふれた有益な感化で囲みなさい。そうすれば、喜んで天国への道を踏み出す者が大ぜいある。(ミニストリー・オブ・ヒーリング 327, 328)

こうしたもてなしを受ける人々は家庭の祈りの時に深い印象を受ける。一度の訪問がひとりの魂を死から救うことがある。(教会への証 6 巻 347)

わたしたちがキリストのみこころに従おうとつとめていることをお客にわからせよう。……真のクリスチャンの家庭の雰囲気は平和と安らかさである。そのような模範には必ず効果がある。(アドベント・ホーム 515)

困り苦しんでいるクリスチャンたちに戸を開くとき、あなたは目に見えない天使たちを迎え入れているのである。あなたは天使たちとのまじわりを招いているのである。彼らはよろこびと平和のきよい雰囲気をもってくる。彼らが口に賛美をもってくる時、天ではそれに応ずる歌の調べが聞かれる。愛の行為の一つ一つに天では音楽がかなでられる。(各時代の希望下巻 110)

絶えず広がってゆく輪

「子をその行くべき道に従って教えよ、そうすれば年老いても、それを離れることがない。」(箴言 22:6)

父親と母親は、青年たちの愛情に指導を与え、よく似合った伴侶となる人を愛するようにさせる義務があるを感じなければならない。親たちは、……自分たちの教えと模範によって、子供たちが清く、気高くなり、善と真実にひきつけられるように、彼らの品性を幼いときから形造ることを義務と思わなければならない。……

真の愛は、高く清い原則である。それは、衝動的に生じ、激しく試みられると、急に消えてしまう愛とは全く異なったものである。青年たちは、親の家で忠実に義務を果たすことによって、自分自身の家庭を持つ準備をしなければならない。青年たちは家庭で自制を実行し、親切で礼儀正しく、クリスチャン的同情の精神をあらわそう。こうして、彼らの心には、愛があたたく保たれる。そして、このような家庭から出て、自分の家族のかしらとなるものは、自分の生涯の伴侶として選んだ人の幸福を増進させる方法を知っている。(人類のあけぼの上巻 187, 188)

父親方、また母親方よ、あなたがたはこの世において、子供たちを将来の不死の命にふさわしいものとするのに助けとなる品性、すなわち、彼らが親として自分自身の子供たちの責任を負い、あなたがた自身の属性を彼らに伝えるのを見ても恥ずかしくないような品性を形成すべきである。(手紙 75, 1898 年)

結婚しようと考えている人は一つ一つの感情をよく考え、生涯の運命を共にしようと思う相手に表われてくる品性のあらゆる発達とあらゆる情操を一つ一つよく見守るべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング[®] 331)

若い方々よ、神と神をおそれる両親を助言者としなさい。そのことのために祈りなさい。……あなたが踏み出そうとしている一步は人生の中で最も大事な一步であって、軽率に踏み出すべきではない。愛してもよいが、盲目的に愛してはならない。(クリスチャン教育の基礎 104)

結婚の縁組に至るまで、しとやか、単純、真実、それに、神を喜ばせ、あがめる熱心な気持ちをもって一步一步進むべきである。(ミストリー・オブ・ヒーリング[®] 331)

明るくきよい光

「それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲がった邪悪な時代のただ中であって、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持って、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。」(ピリピ 2:15)

家庭の伝道はその家族だけにとどまらない。クリスチャンの家庭は生活の真の原則がすぐれていることを実証する実物教訓でなければならない。……真の家庭が人の心や生涯に及ぼす感化はどんな説教よりも有力であって、青年がこういう家庭から出て行くと、その教訓を他に伝え、一段と高尚な生活原則が外の家庭に紹介され、進歩向上に導く感化が社会に及ぼされるのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 326)

すべてのクリスチャンの家庭から、清い光が輝き出なければならない。愛は、行動に現されるべきである。愛は、家庭のすべての交わりにあふれ出て、思いやりとおだやかさと、自分を忘れたやさしさとなってあらわれるべきである。この原則が実行されている家庭がある。それは、神が礼拝され、真の愛が支配している家庭である。これらの家庭から、朝夕の祈りはこうばしいかおりのように、神のみもとにのぼり、神の恵みと祝福は朝露のように祈る者の上に降るのである。……こうして家庭が子供に感化を及ぼし、アブラハムの神が彼らとともにおられることが、すべての人にわかる。もし、クリスチャンといっているものの家庭が、宗教的に正しい型のものであれば、それは、非常によい感化を与える。彼らは、真に「世の光」となる。(人類のあけぼの上巻 149)

家庭でキリスト教に生きる者は、どこへ行っても明るく輝く光となる。(アドベンスト・ホーム 32)

ともしびはどんなに小さくても、つねに燃えてさえいれば、他の多くのともしびに火を点ずるものとなれる。わたしたちの感化する範囲が狭く……でも自分の家庭に与えられた機会を忠実に利用するならば驚くほどの働きができる。もしその心と家庭を開いて神の生活方式を受け入れるならば、わたしたちは生命を与える力への水路となるであろう。わたしたちの家庭から人々をいやす川が流れ出て、荒れはてた不毛の地に生命と美と収穫をもたらすのである。(ミストリー・オブ・ヒーリング 328)

天の家庭への歓迎

「門を開いて、信仰（真理）を守る正しい国民を入れよ。」（イザヤ 26:2）

地上の生活は天上の生活の始まりである。（教育 359）

わたしたちは天の王の子供、王家の家族、神の相続人、キリストと共同相続人である。イエスが用意するために行かれた住居は、真実な者、純潔な者、神のみことばを愛し、これに従う者だけを受け入れる。……もしわたしたちが永遠に続く無上の祝福を味わいたいのであれば、家庭において宗教をはぐくまなければならない。……平和、和合、愛情、喜びが毎日根気良く育てられ、これらの尊いものが家族を構成する者の心に永続するにいたるべきである。（サインズ・オブ・タイムズ 1892 年 11 月 14 日）

家庭で品性を美しくするものは、天の住まいにおいてもそれを美しいものとする。（家庭の教育 521）

もしわたしたちが神の戒めをすべて守って、この世でキリストの品性をあらわすならば、イエスが用意するために行かれた住まいでの楽しい家庭をかいま見ることによって元気づけられ、祝福されるであろう。（サインズ・オブ・タイムズ 1892 年 11 月 14 日）

地上の家におけるすべての美しいものによって、天国の家における水晶のような川、緑の野原、風にそよぐ木々、生ける水の泉、輝かしい都、白い衣を着て歌う人たちなどを思い起こそう。この天国の世界の美しさは、どんな画家もえがくことができず、また人間の口では言いあらわすことができない。（アドベンチスト・ホーム 629）

そこでは神が人の魂に植えつけられた愛と同情心が最も美しく発揮されるであろう。聖者との清い交際、聖なる天使たちや各時代の忠誠な人々との円満な社交生活、天と地の大家族を一つに結びつける交際—こうしたことのすべてが来世の生活の中にあるのである。……言いしれない喜びをもってわれわれは墮落しなかった者たちの歓喜と知恵にあずかるのである。（教育 358, 359）

子供たちを神の都の門へつれて行き、「わたしは子供たちが主を愛するように、主のみことばを行い、栄光をたたえるように教えてきました」と言うことは親の特権である。このような人々に天の門は広く開かれ、親と子はその中へはいるのである。（原稿 31, 1909 年）

研究 3

三重のメッセージ



第一天使のメッセージ

Part II

永遠の福音

「わたしは福音を恥としない。それは、ユダヤ人をはじめ、ギリシヤ人にも、すべて信じる者に、救を得させる神の力である」(ローマ 1:16)。「すべて信じる者に、救を得させる神の力である。この力が活用されるとき、それは敵の力に対抗して余りあることがわかるようになる」(サインズ・オブ・タイムズ 1906 年 11 月 28 日)

「世界は福音の欠乏のために滅びつつある」(キリストの実物教訓 208)。そしてキリストの福音の中で、「神の義は……啓示され」ている(ローマ 1:17)。そしてイエスを通してのみ、「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた、ひとりの男の子がわれわれに与えられた。……その名は、『……とこしえの父、……』となえられる」(イザヤ 9:6)。そしてこのお方は「永遠の義をもたら」すために来られた(ダニエル 9:6)。それゆえに、終わりの時代に、第一天使が「中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてき」たのである(黙示録 14:6)。

「キリストの福音は、初めから終わりまで救いの恵みの福音である。それは際立っていて、支配的な観念である。それは困窮している者にとって助けとなり、真理に対して盲目な目にとって光となり、そして真の土台を求めている魂にとって案内者となるのである」(伝道 552)。

また、「さばきの使命の宣布は、キリストの再臨に近いことを知らせている。そしてこの宣布は永遠の福音と呼ばれている。このようにしてキリスト再臨のことを説教して、その切迫を告げることが福音使命の本質的部分であることが示さ

れている」(キリストの実物教訓 207)。であるから、「福音とは、人間に対する神の愛の啓示であり、そして人類の幸福と安寧にとって本質的なもののすべてを意味しているのである」(クリスチャン教育の基礎 186)。

福音は最初にキリストによってアダムに宣べられた

「わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう」(創世記 3:15)。

「暗黒と闇が死の帳のように、将来をおおってはいたが、しかしなお贖い主の約束の中で、希望の星は暗い将来を照らしていた。福音は最初にキリストによってアダムに宣べられた。アダムとエバは自分たちの罪に対して心からの悲しみと悔い改めを感じた。彼らは神の尊い約束を信じ、そして完全な破滅から救われたのであった」(ビュー・アンド・ヘルド 1875 年 4 月 29 日)。

「中空を飛ぶ天使によって宣布されたメッセージは永遠の福音であって、エデンで神が蛇に仰せになったときに宣言されたのと同じ福音であった。……ここにサタンの力と戦い、彼に打ち勝つために、戦地に立たれることになっていた救い主の最初の約束があった。キリストは聖なる律法に表されたとおりの神のご品性を表すためにわたしたちの世界に来られた。なぜなら、このお方の律法はこのお方のご品性の写しだからである。キリストは律法と福音の両方であられた。永遠の福音を宣布する御使は、神の律法を宣布する。なぜなら、救いの福音は、人間を律法の服従へと導き、それによって、彼らの品性は神に似たみ姿にかたどって形成されるからである」(エレゲッド・メッセージ 2 巻 106)。「人間のうちに、サタンに対する敵意を起こさせるのは、キリストが心の中に植え付けられる恵みである。この改変の恵みと更生の力とがなければ、人間は引き続きサタンの捕虜であり、常に彼の命令に従うしもべであるしかない。しかし、心の中の新しい原則が、これまで平和であつたところに争闘を起こすのである。キリストがお与えになる力によって、人間は、暴君であり、横領者であるサタンに抵抗する力を得る。だれでも、罪を愛するかわりに罪を憎み、これまで心の中を支配していた欲望に抵抗して、それに打ち勝つならば、それは、全く上からの原則が働いていることを示している」(各時代の争闘下巻 244, 245)。

唯一の福音

「しかし、たといわたしたちであろうと、天からの御使であろうと、わたしたちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その人はのろわるべきである。わたしたちが前に言っておいたように、今わたしは重ねて言う。もしある人が、あなたがたの受けいれた福音に反することを宣べ伝えているなら、その人はのろわるべきである」(ガラテヤ 1:8, 9)。

「イエスは彼に言われた、『わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。』(ヨハネ 14:6)。「この人による以外に救はない。わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていないからである」(使徒行伝 4:12)。

「われわれの先祖が罪を犯して以来、神と人間の間には直接の交わりはなかった。……墮落した人間と天との交わりは、すべてキリストを通じて行なわれた。われわれの先祖に贖罪の約束を与えたのは、神のみ子であった。家長たちにご自分をあらわされたのは、キリストであった。アダム、ノア、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてモーセなどは福音を理解した。彼らは人間の身代わりと保証であるキリストによる救いを待望した。これらの古代の聖者たちは、この世界に人間となって来られることになっていた救い主と交わったのであった。彼らのなかにはキリストや天使たちと顔を合わせて話したものもあった」(人類のあけぼの上巻 434)。

「何千もの人が、神の福音にとって代わらせようとして福音を発案している。彼らは神の戒めを人間の戒めと取り替えている。しかしキリストの福音の中で、誉れと名譽は、神の律法に与えられている。わたしはわたしの御父の戒めを、ことごとくその純潔さと聖潔のうちに守ってきた、とキリストは仰せになった。『家々でも』『神に対する悔改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを』『教え』てきた、とパウロは言った。神に対する悔改めがまず求められている。なぜなら、このお方の律法が破られたからである。罪人は改心し、罪に対する唯一の治療法としてキリストの許へ導かれなくてはならない。彼はキリストを自分の個人的な救い主として信じる信仰を持たなくてはならない。キリストは罪の罪深さを減じ、人が不忠実になってもかまわなくするために来られたのではない。このお方は人間に一つの規則も犯す言い訳を残さないように、神の律法に生きるために来られ

たのである。このお方は律法の尊厳を取り消すために来られたのではなかった。世の罪を取り除いてご自分の身に負われることによって、このお方は律法を高め、それを誉あるものとされた。このお方の死は道德律の不朽性を証明する反駁の余地のない根拠であり、また永久にその性質は変わらないという問題に決着をつけ、またそれは永久に、永遠の時を通じて変わらないのである」(サインズ・オブ・タイムズ 1898年2月24日)

罪人のための福音

「よきおとずれを伝え、平和を告げ、よきおとずれを伝え、救を告げ、シオンにむかって『あなたの神は王となられた』と言う者の足は山の上にあつて、なんと美しいことだろう」(イザヤ 52:7)。

「ああ、美しいかな、良きおとずれを告げる者の足は」(ローマ 10:15)。

「罪が存在するや否や、そこには救い主がおられた。キリストはご自分が苦しまなければならないことをご存知であつたが、なおこのお方は人間の身代わりとなつて下さった。アダムが罪を犯すと直ちに、神の御子は、このお方がカルバリーの十字架上で死なれたときのように、罪人の上に宣告された運命を覆すのに十分な力をもって、ご自身を人類のための保証人として差し出された」(ビュー・アズ・ヘラルド 1901年3月12日)。

「キリストは、ご自分の死によって、多くの者を贖い、死の力を持つ者を滅ぼすことを、天使たちに保証なさった。彼は、人間が罪のために失った王国を回復し、そして、贖われた人びとは、彼とともにその王国を継ぎ、永遠にそのなかに住む。罪と罪人は消し去られて、二度と天と地の平和を乱すことはない。キリストは、父が承認なさった計画に天使軍が同意することを命じ、彼の死によって、墮落した人間が神と和解することができることを喜ぶようにお命じになった」(人類のあけぼの上巻 56)。

「アダムとエバは、正しい審判者の前に罪人として立ち、犯した罪の宣告を待っていた。しかし、彼らは、自分たちの分である労苦と悲しみの一生、また、ちに帰らなければならないという宣告を聞く前に、希望を与えずにはおかぬ言葉聞いた。彼らは、大いなる敵の力に苦しまなければならないが、最後の勝利を待望することができたのである」(人類のあけぼの上巻 58)。

「天使たちは、われわれの祖先に、人間の救いのために考え出された計画をさらにくわしく教えた。……神のみ子が、彼らの罪を贖うために、ご自身のいのちを提供されたのである。彼らに恵みの期間が与えられ、悔い改めとキリストを信じる信仰とによって、彼らは、ふたたび、神の子となることができるのであった」(人類のあけぼの上巻 58)。

「アダムは、創造されたときに、地の統治者としておかれた。ところが、誘惑に負けたためにサタンの支配下におかれた。『おおよそ、人は征服者の奴隷となるものである』(ペテロ第二 2:19)。人間がサタンの捕虜になったとき、彼の統治権は、征服者の手に移った。こうして、サタンは『この世の神』(コリント第二 4:4)となった。彼は、初めアダムに与えられた地の統治権を彼から奪った。しかし、キリストはご自分の犠牲によって、罪の罰を払い、人間を贖うばかりでなくて、人間が失った統治権をも回復してくださるのであった。第一のアダムによって失われたものはぜんぶ、第二のアダムによって回復されるのである。預言者はこう言っている。『羊の群れのやぐら、シオンの娘の山よ、以前の主権はあなたに帰ってくる』(ミカ書 4:8)。」(人類のあけぼの上巻 59, 60)。

福音の最後の働き

「そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである」(マタイ 24:14)。

「われわれは神の日の到来を待っているだけでなく、これを早めるのである。キリストの教会が命じられた働きを主がお定めになった通りにしていれば、全世界に対する警告はすでに終わって、主イエスは力と大いなる栄光をもってこの地上においでになっていたのである」(各時代の希望下巻 101, 102)。

「わたしたちはこの地上歴史の終末に近づきつつある。わたしたちの前には偉大な働き、すなわち罪深い世界に対する最後の警告のメッセージを与えるという最後の働きがある。」(伝道 48)。

「なぜなら、わたしたちの福音があなたがたに伝えられたとき、それは言葉だけにやらず、力と聖霊……とによったからである」(テサロニケ第一 1:5)。

「神の大いなる日の光景と直接関連して、主は、預言者ヨエルによって神の霊

の特別なあらわれを約束しておられる。『その後わたしはわが霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたがたのむすこ、娘は預言をし、あなたがたの老人たちは夢を見、あなたがたの若者たちは幻を見る』(ヨエル書 2:28)。

この預言は、ペンテコステの日に聖霊がくだったことによって、部分的な成就をみた。しかしそれは、福音の最後の働きに伴う神の恵みのあらわれにおいて、完全に成就するのである」(各時代の斗争闘上巻序文(6),(7))。

「その働きは、ペンテコステの日の働きに似ている。福音の開始にあたって、貴重な種を発芽させるために、聖霊が注がれて『前の雨』が与えられたように、その終わりににおいて、収穫を实らせるために、『後の雨』が与えられるのである。『この故にわれらエホバをしるべし、切にエホバを知ることを求むべし。エホバはあしたの光のごとく必ずあらわれいで、雨のごとくわれらにのぞみ、後の雨のごとく地をうるおしたもう』(ホセア書 6:3 文語訳)。『シオンの子らよ、あなたがたの神、主によって喜び樂しめ。主はあなたがたを義とするために秋の雨〔前の雨—英語訳。以下同じ〕を賜い、またあなたがたのために豊かに雨を降らせ、前のように、秋の雨〔前の雨〕と春の雨〔後の雨〕とを降らせられる』(ヨエル書 2:23)。『神がこう仰せになる。終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。』『そのとき、主の名を呼び求める者は、みな救われるであろう』(使徒行伝 2:17, 21)。

福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることではない。福音の開始にあたって秋の雨〔前の雨〕となって成就した預言は、その終局において、春の雨〔後の雨〕となって再び成就するのである。これが、使徒ペテロが待望した「慰め〔原文では refreshing (活気づけ、回復の意)]の時」である。彼は次のように言った。『だから、〔調査審判の間に〕自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主の目前から慰めの時がきて、……イエスを、神がつかわして下さるためである』(使徒行伝 3:19, 20)。(各時代の斗争闘下巻 382 (1888 年版))。

「キリストがペンテコステの日に、栄光をお受けになったように、このお方はふたたび福音の最後の働きにおいて、このお方が大争闘の最後の戦闘で最後のテストに耐える民を準備されるときに、栄光をお受けになるのである」(ビュー・アズ・ベラド 1892 年 11 月 29 日)。

わたしたちの義務

「神の愛は全人類を包含している。キリストは弟子たちに任務をお与えになって『全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ』と仰せになった(マルコ 16:15)。」(教会への証 6 巻 273)。

「黙示録 14 章にある複数のメッセージは、世がそれらによって試されるメッセージである。それらは永遠の福音であって、至るところで響くべきものである」(セクレット・メッセージ 2 巻 111)。

「永遠の福音は、人間によって宣布されなければならない。わたしたちは、墮落した世界に対する最後の警告を携えて、中空を飛んでいると表されている御使の複数のメッセージを響かせなくてはならない。わたしたちが預言するようにと求められてはいないとしても、わたしたちはその預言を信じるようにと、また光を他の人々の思いに与えることにおいて神と協力するようにと求められている。これこそ、わたしたちがしようとしていることである」(セクレット・メッセージ 2 巻 114)。

「医療伝道の重要性は増し加わっており、諸教会の注意が呼び求められている。それは福音のメッセージの一部であって、認識されなくてはならない。それは人々の心に入る道を見出すために天に定められている手段である。偉大なる教師の教えに従うというのが、各地のわたしたちの教会員の義務である。福音のメッセージはすべての都市で宣布されなくてはならない。なぜなら、これはキリストとその弟子たちの模範に一致しているからである。医療伝道者は辛抱強く、熱心により高い階級の人々に近づくために努力すべきである。もしこの働きが忠実になされるならば、専門的職業の人々が訓練された伝道者となるのである」(原稿 33, 1901 年)。

「十字架につけられた救い主、キリストの永遠の命を与える力が人々に提示されるべきである。わたしたちは彼らに、新約聖書がその展開された力において福音であるのと同様に、旧約聖書はまさに型と影において福音であるということを示すべきである。新約聖書が新しい宗教を提示しているのではない。旧約聖書は新約聖書に取って代わられるべき宗教を提示しているのではない。新約聖書は、単に旧約の進展したものであり、また展開されたものに過ぎない。アベルはキリストを信じる信者であった。そして、ペテロやパウロとまったく同じように、キリストの救い力によって救われたのであった」(教会への証 6 巻 392)。

「厳粛で聖なる警告のメッセージは、もともと困難な伝道地や、もともと罪深い都市、また偉大な三重の福音のメッセージの光がまだその光を表し始めていな

いすべての場所で宣布されなければならない。すべての人が小羊の婚宴への最後の招きを聞かなくてはならない。町から町へ、都市から都市へ、国から国へと、現代の真理のメッセージが宣布されなければならない。単に外面の見せ掛けばかりでなく、聖霊の力のうちに宣布されなければならない」(主は来られる 261)

「しかし、光をあらゆる方向に放射し、はっきりと筋道を立てて、罪人が永遠の命を得るために何をしなければならないかを説明することが、わたしたちの義務である」。(ビュー・アンド・ワルド 1891 年 7 月 7 日)。

じさんは説明しました。そのとき、おじさんはジェイソンに向かって言いました。「でも、おじさんは、君にこの芸当（げいとう）を学んでほしくはないんだ!」

「ぼくは、やりたくたって、皮膚（ひふ）の色を変えたりできないよ」とジェイソンは言いました。

「ああ、だけれど多くの人がかメレオンみたいだよ」とジョンおじさんが答えました。「彼らはぜんぶ自分の思いどおりにいくときはクリスチャンのように見えるけど、何か嬉しくないことが起こると、すぐに自分の色を変えるんだ。彼らを見ても、だれも彼らに愛する救い主がおられて、天ですばらしい家庭が彼らを待っているとは思えないんだよ」。

ジェイソンは深いため息をつきました。彼は最近、自分があまりクリスチャンらしくふるまっていないことを知っていました。自分の脚を骨折してから、彼はふくれつつらをして、自分がかawaiiそうだと思っていました。ちょっとした間、二人とも何も言いませんでした。それから、ジョンおじさんは立ち上がって言いました。「さあ、おじさんは行かなくちゃいけない。新しいペットを楽しんだらいいよ。エサについては、ビンの上書いてある」。

「ありがとう」ジェイソンは答えました。「彼の世話をしたら、楽しいと思うよ。そして、ぼくはすでに彼から学んだことがある」。

少年少女のみなさん、あなたは教会ではこのようにふるまいながら、学校や家では違うようにふるまっていますか？あなたは自分の気分や環境にしたがって、自分の色を変えていますか？もし、みなさんが神様にさせていただきたいと思うなら、あなたがかメレオンになる代わりに、一貫（いっかん）して、変わらないクリスチャンになるよう助けて下します。これをわたしたちのモットーとしましょう。

「わたしは全き道に心をとめます（わたしは知恵をもって、完全な方法でふるまいます）。……わたしは直き心をもって、わが家のうちを歩みます」（詩篇 101:2）

カリフラワのグラタン

〔材料〕 2 人分

カリフラワ（一口サイズ）	1 / 2 株
たまねぎ（みじん切り）	小 1 個
きのこ（お好みのきのこの細切り）	1 / 2 パック
炊いた玄米ご飯	1 / 2 カップ
パン粉	大さじ 2
野菜スープ	1 カップ
塩	小さじ 1 / 3
ココナツミルク	1 / 5 カップ
全粒粉	大さじ 1

※野菜スープ：半端野菜をこまかくきざみ、2 倍の水を入れて、中火で煮たあと、火が通ってからさました煮汁

〔作り方〕

1. 野菜スープにたまねぎときのこを入れて、5 分煮る。
2. カリフラワ、玄米ご飯、塩とココナツミルクを加えて煮る。
3. 少々の水に溶いた全粒粉を加える。
4. カリフラワに火が通ったら、グラタン皿に移し、パン粉をふって、200 度のオーブンでパン粉に色がつくまで焼く。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)



【公開放送】 <http://www.4angels.jp>

聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



カメレオンのクリスマス

「もうこの骨折した脚（あし）にはがまんできないよ」とジェイソンはジョンおじさんに文句を言いました。「ボール遊びもできないし、何にもできない。もうこの松葉づえにはうんざりしちゃった」。

「もしかしたら、おじさんが君のために持ってきたびっくりプレゼントで少しは気分がよくなるかもしれないよ」とジョンおじさんが、包みをジェイソンに手渡ししながら、言いました。ジェイソンが夢中で開けてみると、そこに 10 センチくらいの緑色の生き物がいました。

「それはカメレオンだよ」とジョンおじさんが説明してくれました。「ここにビンから外に出してみてごらん。君のお母さんの植物のまわりをよるこんで走りまわるから」。

ジェイソンは、そっとこの新しいペットを大きな植物の幹（みき）においてみました。突然、彼はちかよって見てみました。「ジョンおじさん、なんだか様子（ようす）が変わったよ!」とジェイソンが叫びました。「カメレオンの色が変わっていったる」。

ジョンおじさんは、あごの下をなでながら、「いま茶色い幹の上にいるから、茶色に変わっていったるんだ」と言いました。

「びっくりだね!」とジェイソンは叫びました。

「カメレオンはね、灰（はい）色、茶色、緑、黄色がかった茶色に変わることができるよ。色を変えるのはね、ただまわりの環境にまじるためだけでなく、自分の気分や気持ちにしたがっても変わるんだよ」とジョンお

